

武魂繼承祭

今から八十四年前の昭和七年五月十五日、
当時塗炭に苦しむ農民・労働者を憂い、政
権党利に盲ひたる政党と之に結託して、民
衆の膏血を搾る財閥に対し、檄文「日本國
民に檄す」に見る主張のもと、五一五烈士
は、昭和維新を念願し、五一五事件を決行
しました。

我々は、五一五事件の意義を継承し、歴
史を風化させない為、事件で犠牲になられ
た犬養毅命・田中五郎命・事件に携わられ
た青年将校・陸士候補生・民間の方々全て
の御靈を案じ、此処靖國神社において武の
心の継承を誓いたいと思う。
日頃の鍛錬の成果を奉納すべく、区々た
る一身を顧みず世直しに起ちあがつた五一
五烈士、祖国の永劫を祈りつつ戦陣に斃れ
られた二百四十六万六千余柱英靈の御靈に
感謝のまごころを籠めて

日本国民に檄す

日本国民よ！

刻下の祖国日本を直視せよ、政治、外交、経済、教育、思想、軍事！何處に皇国日本の姿ありや。政権、党利に盲ひたる政党と之に結託して、民衆の膏血を搾る財閥と、更に之を擁護して圧政日に長ずる官憲と、軟弱外交と墜落せる教育、腐敗せる軍部と悪化せる思想と、塗炭に苦しむ農民、労働者階級と、而して群癡する口舌の徒と！

日本は今や斯くの如き、錯綜せる墜落の淵に死なんとしてゐる。革新の時機！今にして立たずんば、日本は滅亡せんのみ。

國民諸君よ！武器を執つて起て！今や邦家救済の道は唯一つ「直接行動」以外の何者もない。

國民よ！天皇の御名に於て君側の奸を屠れ！

國民の敵たる既成政党と財閥を殺せ！

横暴極まる官憲を膺懲せよ！

奸賊、特權階級を抹殺せよ！

農民よ、労働者よ、全国民よ！祖国日本を守れ！

而して、

陛下聖明の下、建国の精神に帰り、國民自治の大精神に徹して人材を登用し、朗らかな維新日本を建設せよ。民衆よ！

この建設を念願しつ、先づ破壊だ！

凡ての現存する醜惡なる制度をぶち壊せ！

偉大なる建設の前には、徹底的な破壊を要す。

吾等は日本の現状を哭して、赤手、世に魁けて諸君と共に、昭和維新の炬火を点ぜんとするもの。素より現存する左傾、右傾何れの団体にも属せぬ、日本の興亡は吾等「國民前衛隊」決行の成否に非ずして、吾等の精神を通して続起する國民諸君の実行力如何に懸る。起て！起つて、眞の日本を建設せよ。

昭和七年五月十五日

陸海軍青年将校
農民同士

式

次

第

歌

独

唱

一、國
一、四方祓

いの儀

大

地

社

一、一位流合氣古武道

美劍

体

道

一、國際 F S A 拳真館

總

本

部

一、不二流體術

久保

村

道

場

一、大日本山流

東京

文武

館

一、芸道殺陣波濤流

高瀨

道

場

青年日本の歌

作詩・作曲

三上 卓

一、

汨羅の渕に波騒ぐればば
巫山の雲は亂れ立れ飛
義憤に燃えて血潮湧く

二、

國門を開けよ財閥の上
社會を富めよ眞理の上
と憂愁を胸に國運に懶
ふ心を誇る誠れどもしも

三、

鳴あひよ國門を開けよ
社稷の閥門を開けよ
財閥の門を開けよ
財閥の門を開けよ

四、

盲治の世は正義に散る
財閥の世は正義に散る
眞理の世は正義に散る
眞理の世は正義に散る

五、

夫の歌なかつて起らぬ
身の歌なかつて起らぬ
歌の歌なかつて起らぬ
歌の歌なかつて起らぬ

六、

天の怒りか地の声か
そも只ならぬ響きあり
民永劫の眠りより
醒めよ日本の朝ぼらけり

七、

吹革新の機到りぬ
草新の機到りぬ
見よ日本の水は雄雲
見よ日本の水は雄雲

八、

華ひの道を人はゆづ
華ひの道を人はゆづ
華ひの道を人はゆづ
華ひの道を人はゆづ

九、

成せん功名何とか夢
成せん功名何とか夢
成せん功名何とか夢
成せん功名何とか夢

十、

吾悲や歌かめ
吾悲や歌かめ
吾悲や歌かめ
吾悲や歌かめ

武 魂 繙 承 祭 實 行 員 会